

11月19日(木) 18:00 旭川医科大学機器センターカンファレンスルームにて「第6回医学部学生と女性医師の語る夕べ」が行われました。参加学生16名、医師16名計32名でした。

開催次第は次の通りです。

第一部

講演1:「めざそう! キャリアアップと家庭の両立」

安孫子亜津子先生

旭川医科大学内科学講座

病態代謝内科学分野 講師

講演2:「望まれる女性医師のキャリアアップ」

長谷部千登美先生

医療法人社団慶友会

吉田病院 副院長

報告:「病後児保育開始に向けた取り組み」

岸部麻里先生

旭川医科大学二輪草センター

特任助教

第二部 小グループによる懇談会

各講演、報告内容を次の様にまとめてみました。

講演1

安孫子亜津子先生

1992年3月旭川医科大学を卒業し、第2内科に入学。ご主人と共にボストンに留学し、糖尿病網膜症の研究に従事、ボストンで妊娠、出産、小児科での検診など貴重な体験をされて帰国。そして2年10ヶ月ぶりに仕事に復帰。

仕事と家庭の両立で悩むこと(参1)、育児を経験して得られたこと(参2)、医大での仕事を経験して得られたこと(参3)、女性として内科医(糖尿病医)の仕事をして得られたこと(参4)。今まで仕事を続けられた要因等(参5、6)について話されました。最後に女子学生さんたちへのメッセージを贈られました。

女子学生さんたちへのメッセージ

自分が一番やりたいことを、その時その時で選択してください

これからのことを色々仮定して考えすぎても、必ずしもその通りにいくわけではありません

何をすべきか悩むことは自然の過程である

何かが起こったときに対応する能力を養っていくことが大事

そして、自らが健康でいること(最後は体力?)

参1

仕事と家庭の両立で悩むこと

・時間のやりくりが難しい
帰宅時間が遅くなるため、短時間で子供とのコミュニケーションを深めること、家事をこなすなど、いかに効率よく時間を使うか

・子供の行事をキャンセルしなければならないことがある

・子供のやりたいことを我慢させていることがある
(平日に友達と家で遊びたい、習い事など)

・早く帰宅しなければいけないため、同僚とのコミュニケーション時間が短くなる

・出張時に子供を見もらう方法のコーディネートが必要
(自分の予定をたてる前に家族の予定を知っておく)

・夫や親には頼ってばかり...

参2

育児を経験して得られたこと

「育児は大リーグボール養成ギブスである」 by 勝間和代

子供は自分の思うとおりにはならない
でもそこが面白いし、新発見の連続
どつきりエピソードもいろいろ

子供が心の支えになっている
つらい時にも子供の笑顔や、ちょっとした言葉で励まされる

・これまで利用した主なサポート

豊岡中央病院院内保育所

緊急サポートネットワーク

留守宅児童会

二輪草センター(夏・冬のキッズスクール)



参3

医大での仕事を経験して得られたこと

病棟医長、外来医長

→病院の全体の仕組みや問題、現在の取り組みなどを
知ることができる

病室対策委員会、インスリンワーキンググループなどに参加

→院内のシステム・マニュアル作りを経験

平成17年度から20年度保健管理センター内科担当医

→学生さんたちと語る機会

平成18年には医療人GP(社会的ニーズに対応した質の高い

医療人養成推進プログラム)のプロジェクトチームメンバーとなる

→多職種のメンバーと知り合いになった

二輪草プランが採択後、二輪草プラン推進委員会

参 4

**女性として
内科医(糖尿病医)の仕事を続けて**

似た悩みを抱えている女性患者さんと共感できる
女性特有の身体的問題について相談してもらえる
色々な患者さんから人生観を教えられる

増え続ける糖尿病患者さんの診療にかかわっている
一般の人たちにも啓蒙活動を行う機会
大学以外の人との交流から学ぶことがある

参 5

今まで仕事を続けられた要因は

- 医師の仕事(糖尿病患者の診療)が好きである
- たくさんの患者さんとの出会いは人生の財産と思
っている
- 周囲のサポートがあった
家族・恩師・同僚・後輩などに感謝！感謝！
- 働く女性の話を聞いたり読んだりすることで勇気
をもらった
- チャレンジ精神は意外とある
- 大きな病気をしなかった(自分も家族も)

参 6

自分ができることをやってみる

そのときの事情によってやれることの範囲は変わってくる

↓

今、自分にできることを、まずできるだけがんばってみる

できないことは素直に周囲にお願いする勇気も必要
一人で何でも抱え込まない

しかし、サポートに頼るだけではいけない

人との出会いや、関わり合いが大きく影響することもある
働く女性の話を聞くことで、勇気をもらえる

講演 2

長谷部千登美先生

1980年旭川医科大学を卒業し、第3内科に入局。
2児を出産したあとボストンに留学。帰国後旭川
医科大学第3内科助手として勤務。現在吉田病院
で勤務。

女性医師のキャリアアップを支援する活動例と
して徳島大学外科学教授 島田光生先生の「女性
医師が輝き続けるために」と題した講演が素晴ら
しく感動したとのことでその内容が紹介されまし
た。(女性外科医が抱える3つの課題とそれに対
する対応策など。資料の一部を載せました。)

女性外科医が抱える3つの課題

| | |
|--|---|
| <p>勤務体制</p> <ul style="list-style-type: none"> • 体力的ハンディ - 体が小さい、力が無い • 月経による体調の変化 • 妊娠出産時のマンパワー不足 • 休暇代替の確保が困難 • 育児時間確保の困難 • 労働時間が不定(時間外労働) • 当直、緊急対応の代替 • 保育所(時間)・病児保育の確保 • 学会参加へのサポート(土・日の保育) • 女性が働く環境が確保されない • 仮眠ベッド・ロッカー・シャワー • セクハラ・差別 | <p>キャリアアップの障害</p> <ul style="list-style-type: none"> • 少数派である • <u>ロールモデルが選られない</u> 相談できる人がいない • 修業の中断 妊娠・出産による中断・復帰困難 条件に合う環境がない、技術的、心理的 |
| <p>専門医となることの困難さ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 専門医取得のプログラム • 一般外科の終了が必須 • 専門医の更新に猶予がない | |

制度の整備だけでなく、関係者の意識改革が不可欠！

(日本外科学会調査)

体力不足への対応

力仕事の軽減

➔ 鏡視下手術への移行

長時間の手術でも参加が可能

➔ 手術における役割分担

女性外科医のキャリア形成

～ モデルの作成 ～

- 学会発表
国内学会→国際学会(Global化)
- 研究(論文)→博士号
- 海外留学
- 文部教官?
(講師→准教授→教授)

女性医師が働きやすい病院は女性医師だけでは
なくすべての医療従事者にやさしい病院であり、
トップ(院長)の意識が高いこと。

「環境が整ったとしてもそれに甘えず、医師と
して国民の健康を守るという高い志で人生を貫く
女性医師がどれだけ医療の現場を担い、リーダー

産休・育児中のモチベーション維持

1. 手に職をつける
専門医、技能医の資格
産休、育児中にも
 - ・ 手術の指導に来てもらう
 - ・ 外来(指導含む)に来てもらう
2. 地方(地域)での学術セミナー開催
3. e-ラーニング (学会の専門医講座など)

旭川医大でも、近隣の病院でも、
女性医師への支援体制は徐々にすすんでいます。

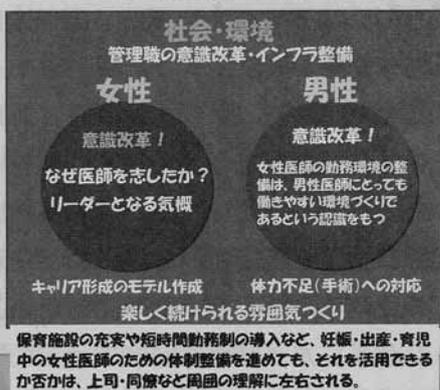
保育体制・勤務時間等の工夫・職場復帰支援・
などなど

もちろん、男性医師の『意識改革』も

どんな医師になりたいか、大きな夢をもち、
それに向かって歩み続けてください

になるかということが1つの課題」その為に早い
時期からキャリアデザイン、リーダーシップ開発
にとりくむ必要がある。

Paradigm Shift



最後に学生さんへのエールが贈られました。

夢は語られてこそ実現する

夢というのは、それが優れた語り手を得た時に、初めて実現へ向かってその一歩を踏み出すものである。

歳月が流れ、夢を語り、語りせた人の名前が世間から忘れ去られても、夢は語られなければならない。そして人は夢を語ることによって成長し、若さを保ち得る(輝き続ける)のである。

夢は語られてこそ実現するのである!

女性医師の活躍を期待します。

報告 病後児保育開始に向けた取り組み

二輪草センター 岸部麻里先生

育児をしながら仕事を続けていく上で、子供が急病の時のサポート体制は不可欠です。岸部先生ご自身、まわりへの迷惑も考えてやめようかと思った経験もふまえ、病後児保育が整備されることで、安心して就業継続ができるし、離職する医師を減らすことができ、又、病院としても働きやすい病院としての評価も得られ、研修病院として選択する学生も増えるであろうなど、いろいろな良い結果が期待できると話されました。

第 部

小グループに分かれて、和気あいあいと懇談することができました。

アンケート結果

講演1・2、報告、懇談会のすべてにおいて、75%以上がとても良いという結果でした。

<講演についての感想>

- 安孫子先生のお話はとても興味深かったです。時間がなく、講演2の途中までしかいられず残念です。短い時間ですが勉強になりました。
- 出産・育児の話だけでなく、留学経験についても拝聴でき、非常に参考になりました。

<懇談会についての感想>

- 懇談会がとても有意義でしたが、あっという間でした。もう少し色々お話をお聞きしたかったと思いました。
- 先輩方のお話が聞いて大変参考になりました。またぜひ参加したいです。
- 懇談会の時間がもう少し長くてもいいと思います。
- 懇談会では更に掘り下げた具体的なお話も伺う機会が得られ、貴重な経験となり、感謝いたしております。
- まだまだ聞きたいこともありましたが、色々なお話を聞いて良かったです。
- 人生の先輩の方々のお話を聞いて、勇気をいただけました。講演も興味深く良かったのですが、懇談会の時間を長くともってもらえると良いと思いました。
- もう少し話したかったです。

<会全体についての感想>

- また機会があれば参加したいです。今年度は今年で最後でしょうか？
- 周囲（家族、親族）に医師がいないので、どのようにして家庭と仕事を両立すればいいのかかわからず、不安だったのですが、今回女性医師の方々生の声をお聞きすることが出来、モチベーションが上がりました。またこのようなイ

ベントを開いて欲しいです。

- とてもアットホームな雰囲気の会で、先生方にも質問しやすいです。もっと多くの学生に参加して欲しいです。来年も卒試が終わっていたら、ぜひ参加させていただきたいです。お忙しい中、たくさんの先生方にお話を伺うことができ大変勉強になりました。
- 内容は充実しており、興味深かったので、また機会があれば参加したいと思います。
- 今回初めて参加させていただいて、すごくためになりました。また参加したいです。

<次回に取り上げて欲しいテーマ等>

- キャリアアップをするための工夫と、実際の女性医師の1日のタイムスケジュールや休日の過ごし方にも興味があります。
- 全国的にどの程度院内保育施設の設営が進んでいるのかなども知りたい。
- 結婚出産以外にも、独身であっても女性医師として直面しうる問題についての話や、生理などの体調不良の時の対応等の話も聞きたい。
- 休職中の過ごし方（復帰に向けて or 育児 etc）
- パートタイムでの働き方

<その他の意見等>

- 学生さんの参加がもう少し多かったら良かったと思います。
- 今回、学生は3年生以上が多かったように思いますが、低学年も参加しやすいような工夫もポスター等にして下さったら更に意見の幅も広がるかと思います。（ex. 参加者の感想を本人に承諾の上案内に掲載するなど）
- お忙しいとは思いますが、普段あまりお話する機会のない開業医の先生や医大以外の女性の先生との飲み会みたいなのもあればいいなと思いました。